

発行所
美術新聞社
東京都渋谷区桜丘町29-35
〒150-0031 ☎(03)3462-5251
FAX (03) 3464-8521
e: kayahara@kayahara.com
編集発行人 萱原 晋
毎月2回1・15日発行 ©2020
発売 (株)萱原 (登)書房
1部400円+税(千円10,000円税別)
振替00150-5-21073

競書雑誌 制作シェア No.1
バーコード出品券で 楽々編集!
株式会社 **リンクス**
(見積り無料)
〒350-1112 埼玉県川越市上野田町27-15 ☎049-242-0016

本誌の主な記事
②読売展・役員人事さま
③中島司有書作展④大
学卒論修論展⑤大学
教員名鑑⑥大学卒業情
報⑦紙上鑑賞⑧鉄斎
の箱書⑨村上三島展⑩
中国の陶芸展⑪20面
関連クラブ⑫恩地春洋遺
墨展⑬鈴木静村遺作展

「古代中国・オリエントの美術展」第1弾

70周年展「第1弾」

2・15〜4・15
細川コレの永青文庫で

「古代中国・オリエントの美術」展が二月十五日、東京・文京区の永青文庫で開幕する(四月十五日まで)。同展は、同文庫が細川コレクションの保存と公開を目的に昭和二十五年に財団として設立されてから、今年が七〇周年に当たるのを記念して開く記念展の第一弾。同文庫が年に四回開催している恒例の館蔵品による企画展の「令和元年度早春展」としての位置づけだが、記念展のスタートでもあることから、「細川ミラー」として名高い同コレクション屈指の逸品で国宝指定の「金銀錯狩猟文鏡」(中国)と、同じく国宝指定の「金彩鳥獣雲文銅盤」(同)が期間限定で公開されることになっており、この春必見の一展として期待される。(十一面に関連クラブ)



▲①中国戦国時代の「金銀錯狩猟文鏡」(国宝)永青文庫屈指の名宝の一つで、「細川ミラー」として世界的に名高い

今回は、細川コレクションの中核を成す、コレクションの生みの親で、同文庫の設立者でもある細川家十六代、細川護立(もりたつ)一八八三〜一九七〇)が収集に最も強い情熱を注いだとされる古代中国関係の美術を軸に、合わせてこれまでほとんど公開機会がなかったというオリエント美術、また中国を題材とした近代絵画などまで、「古代中国・オリエント」をテーマとした多彩な内容の展示となる。

そうした中でもとりわけの見どころは何と言っても、「期間限定」で二月月曜に及ぶ会期前半と後半に、いわば「シフト勤務」的に展示される「金銀錯狩猟文鏡」と「金彩鳥獣雲文銅盤」(国宝)二品。これらは、わが国に伝存し、国内の各家各館で厳重に保護されている数ある中国古代の文物名宝の中でも、「絶品中の絶品」とされているもので、これら一度に鑑賞できる機会はいはばめったにない。

また、「金銀錯狩猟文鏡」は、同館の資料によれば、中国・河南省洛陽の金村古墳から出土したもの。白銅製の鏡面と青銅製の鏡背から成る銅鏡で、鏡背には三つの怪物渦文の間に禽獣や狩猟の文様が象嵌されており、剣を手にした馬上の人物と虎図の極めて写実的な表現から、「狩猟文鏡」と名づけられたという。

中国の戦国時代(BC五〜同三世紀)に流行した、金属に文様を刻して金や銀などをはめ込む象嵌技法(金銀錯)による鏡面の現存最優品とされる逸品で、世界的に「細川ミラー」として名高い。

一方の「金彩鳥獣雲文銅盤」は、護立が大正末年から一年半にわたって欧州めぐりの途次、パリで出合っって購入し、これをキッカケに本格的にコレクションを始めたといわれるいわくつきの名宝。古代中国のBC三〜AD一世紀(前漢〜王莽新代頃)のものと考えられ、形状的には料理を盛る器と見られるが、鳥獣や雲文が筆を用いて金で描かれていることから、実用品ではなく宮廷用の特別な用途に用いられたものと考えられている。

今回は、これらの国宝名品をはじめとする中国古代の文物・美術品の優品がまず見どころだが、それ以外にも、護立が強い関心を抱いて収集に打ち込んだといわれるオリエント美術、中でも優品揃いとして知られる古代イスラムの陶器やタイル類、東地中海沿岸地域からの出土品や古代エジプトの王墓からの出土品等々、また代々茶の湯を愛好したことで知られる大名家、細川家伝来の朝鮮時代の高麗茶碗なども、実に多彩な展示が計画されている。

またこれらと合わせて、中国と中国文化に人一倍強い憧れを抱いていた護立と親交のあった近代の洋画家、安井曾太郎や梅原龍三郎らが、中国に赴いて制作した絵画作品や、画家が護立に宛てた書簡等の展示も予定されている。問い合わせ等は、☎〇三三九四一〇八五〇同館へ。

書道 ART 美術新聞
広告料金(カラー)ご案内

サイズ(cm)	料金(税別)
全1段	3.2×24.4 50,000円
全3段	10.4×24.4 150,000円
全5段	17.6×24.4 250,000円
2段1/2	6.8×12.1 50,000円
1面全3段	10.4×24.4 250,000円
20面全3段	10.4×24.4 200,000円
全面11段	39.3×24.8 550,000円
突出し	6.8×5.5 50,000円
1面肩	3.2×5.5 30,000円

※モノクロはカラーの2割引(従来料金)となります。
美術新聞社 広告営業部

国語科書写の理論と実践

全国大学書写書道教育学会編

全国大学書写書道教育学会では、平成2年(一九九〇)より、教員養成を主たる目的としたテキストを編集し、上梓してきました。初版テキストは『書写指導小学校編』『書写指導中学校編』の二冊でした。何度かの改訂を経て、平成16年(二〇〇三)には一冊にまとめた『新編書写指導』として上梓しました。平成22年(二〇一〇)には、授業理論と指導内容および資料編の見直しをおこない、内容の精選をはかるとともに「色刷り」とした『明解書写教育』を上梓しました。

情報環境の急激な変化に伴って、文字を使用する場面や意識も変化しています。その中で、次代を担う子どもたちには、文字を手書きする力をより確かなものとし、生涯にわたって主体的に手書きする人であってもらうことが重要です。そのためにも、わかりやすく確かな書写学習が求められるでしょう。今回、社会や教育の動向に応え、また新しい学習指導要領に対応するため、テキスト内容の全面改訂をおこない、本書の上梓に至りました。

本書は、大学での教員養成における書写に関する授業で使用することを目的としています。社会教育を含む、広く文字を手書きすることの指導に関わる多くの皆様の参考に供することも願っております。(本書「あとがき」より)

http://kayahara.com/ ☎kayahara@kayahara.com

「画像説明」①「金銀錯狩猟文鏡」(国宝)(中国戦国時代・BC4〜同3C) ②「金彩鳥獣雲文銅盤」(国宝)(前漢〜新・BC3〜1C) ③「漢〜新・BC3〜1C」 ④「木製3ヤブティ」(古代エジプト新王国第18王朝時代・BC15〜同14C頃) ⑤「白釉色絵人物文鉢」(7〜12〜13C) ⑥「トルコバンドガラス碗」(東地中海沿岸地域・BC2〜同1C) ⑦「柿の葉茶碗」(朝鮮・16C) ⑧「人物画タイル」(イラン・17C)

東博の入館料の大幅値上げ方針について異論を差し挟んだら、各方面からいろいろお励ましを頂き、同愛の土が少なくないことを実感した。ある読者からは、「東博の考え方は安易すぎ、論外。博物館法は、国民共有の文化財について無料で国民に展覧、鑑賞させることと規定されているのだ」とご教示頂いた。そうなのだから、早速「博物館法」をひも解いてみた。そうしたら、博物館法第二十三条にはこうあった。「公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。なるほど、そうなのか。▼じゃあなぜ、各館とも大抵ばらばらに入館料を徴収しているのか。で、二三条をよく読むと、後段にこうあった。「但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。なるほど、法律は作る人も使う人も、ちゃんと抜け道が分かっているのだから。▼だが、東博は将来のための財務基盤の整備」を掲げているわけだから、これは「やむを得ない事情」とはちょっと違う。ちなみに、海外に目を向けてみると、ソウルの国立中央博物館にしても、中国の上海博物館、天津博物館にしても、すべて入館料は無料。これがグローバル・スタンダードなのだ。

本書は、大学での教員養成における書写に関する授業で使用することを目的としています。社会教育を含む、広く文字を手書きすることの指導に関わる多くの皆様の参考に供することも願っております。(本書「あとがき」より)

全国大学書写書道教育学会では、平成2年(一九九〇)より、教員養成を主たる目的としたテキストを編集し、上梓してきました。初版テキストは『書写指導小学校編』『書写指導中学校編』の二冊でした。何度かの改訂を経て、平成16年(二〇〇三)には一冊にまとめた『新編書写指導』として上梓しました。平成22年(二〇一〇)には、授業理論と指導内容および資料編の見直しをおこない、内容の精選をはかるとともに「色刷り」とした『明解書写教育』を上梓しました。

情報環境の急激な変化に伴って、文字を使用する場面や意識も変化しています。その中で、次代を担う子どもたちには、文字を手書きする力をより確かなものとし、生涯にわたって主体的に手書きする人であってもらうことが重要です。そのためにも、わかりやすく確かな書写学習が求められるでしょう。今回、社会や教育の動向に応え、また新しい学習指導要領に対応するため、テキスト内容の全面改訂をおこない、本書の上梓に至りました。

本書は、大学での教員養成における書写に関する授業で使用することを目的としています。社会教育を含む、広く文字を手書きすることの指導に関わる多くの皆様の参考に供することも願っております。(本書「あとがき」より)

http://kayahara.com/ ☎kayahara@kayahara.com